

# 特定非営利活動法人 小田原なぎさ会

## 2016年(平成28年)度事業報告書

### 2016年(平成28年)度事業報告

#### 1. 主な事業活動の実績と特記

- 小田原地域（小田原市・湯河原町・真鶴町・箱根町）で暮らす精神障害者等が自立した生活を営み、社会復帰と社会参画を促進するための事業を行った。
- 作業所の運営では、基本方針としている「気軽に立ち寄れる居場所作り」と「本人の希望や特性を配慮した就労支援」を活動の2本柱として取組んだ。また、施設の環境整備を推進し、使い勝手や衛生面に関して大幅な改善をおこなった（神奈川県共同募金を活用）。利用者（以下、メンバーと記載）3名を就労に向けてステップアップさせることができた。
- 「改正障害者雇用促進法」が平成28年4月1日に施行され、平成30年度からはいよいよ法定雇用率の算定基礎に精神障害者が追加される。この法改正を実効あるものにすべく、この数年にわたり継続して「精神障害者の就労支援の強化」を小田原市長へ強く訴えている。また、私たちにできそうなところからも具体的な就労支援につなげるべく、大小企業3社にコンタクトして、普及啓発と協働提案などをおこなった。各社の障害者雇用に関する現状を把握することができた。
- 「第2期おだわら障がい者基本計画」に対するパブリックコメントを提出した。この中では各施策に対する目標値の明確化を訴え、これに対して「小田原市障がい福祉計画」で、障害者の就労に関する具体的な目標値を設定するとの返答を得た。
- 2年前（平成27年5月）から開始した『エコキャップ活動』は、想定を遥かに超える活動規模に育っている。また、この活動を通して地域の教育機関との協働（コラボ活動）や各種団体とのつながりを増やすことができた。
- ホームページ及びリーフレット等を活用し、私たちの活動を広く発信すると共に（普及・啓発強化）、協働を投げかけた（連携強化）。リーフレット等を常時設置させていただいている関連機関を増やした。
- 事務所に保管する書類の整備と整理（センターファイル化）の充実化を逐次推進し、NPO法人としての活動基盤を更に強化した。
- 平成28年9月21日付けで、NPOの最高格とも言える『認定NPO法人』になることができた。広く市民から支持を得ている等の基準を満たしていることを所轄庁から認定された。今後はこの制度を最大限に活用した活動を展開していきたい。
- 当法人は平成28年で創立10周年を迎えることができた。これを記念して「創立10周年記念式典を9月24日に開催した。20名を超えるご来賓を含めて、参加総数70名以上と大盛況なイベントにすることができた。

○職員の資質向上を目指して、研修等への参加を強化した。

S S T研修、N P O法人会計研修、障害者虐待防止研修（西湘連絡会）、精神障害とDNAに関する講演 等に参加

## 2. 事業内容

- (1) 精神障害者の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業
- (2) 精神障害者の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業
- (3) 関連機関・団体との連携に関する事業

上記、(1)～(3)の事業を推進するため、下記の各活動を行った。

尚、主な活動の実績を添付別紙1「平成28年度の主な活動計画と実績」に示す。

### \* 総会・理事会・月例会議・地域ネットワーク会議・機関紙編集会議等の開催

- ① 特定非営利活動法人小田原なぎさ会の通常総会を5月20日に開催し、年度を通じた各事業の取り組み状況報告及び各議案の審議を行った。
- ② 理事会を開催し、当会の運営及び各事業について協議するなど法人運営と事業推進に努めた。（開催日：4/22、9/5、3/17）3回
- ③ 月例会議を毎月定例開催し、作業所における日々の活動を中心として協議するなど施設運営事業を推進した。また普及啓発事業や連携事業などを含めた法人運営全般に関わる情報共有の強化を図った。  
（開催日：原則毎月第1金曜日）12回
- ④ 地域ネットワーク会議を開催し、地域を巻き込んだ活動展開について協議するなど関係先との連携事業を推進した。開催日：5/20、9/5、3/17）3回
- ⑤ 小田原なぎさ会通信の編集会議を開催し、機関紙の充実を図るなど普及啓発事業を推進した。（開催日：8/4、1/12）2回

## (1) 施設の設置、運営事業（地域拠点活動 等）

○小田原なぎさ作業所（以下、作業所と記載）の運営

・内容：

- ①日々の活動であるメンバーの各種生産活動（作業）について、その生産計画策定や作業指導を職員が連携して順調に推進した。また朝夕のミーティングや室内清掃などは極力メンバー主体で自主的に行うようにシステム化している。その他の週間活動（習字教室・パソコン教室等）や、お誕生会・社会見学・バス旅行などの各種イベントの充実化にも注力した（H28年度は初めてバス旅行を2回実施）。これらの活動を通して、メンバーが自ら生活のリズムを整えることやソーシャルスキルを向上することにつながる支援を行った。
- ②メンバー一人ひとりの障害の程度や希望・特性を配慮しながら自立（自律）促進を推進した。このために、個別支援計画を作成し、モニタリング・アセスメントなどを活用して、個々にきめ細かな支援を図った。
- ③昨年に引続き、障害に関する映画上映とその後の意見交換を行い、メンバー自身が自分を見つめなおす機会を設けた。
- ④畑体験では、今までの収穫体験に加えて更に植付体験を盛り込み、活動内容を充実させた。自然とのふれあいや畑作業の喜びを体感できる場を設けた。
- ⑤昨年度から開始した『エコキャップ活動』は、「私たちも誰かを支援できる！！」を合言葉にメンバーが主体になって推進する自主活動である。メンバー・職員・役員などの粘り強い活動に加え、周囲からの強力な応援のおかげをもって想定を遥かに超える活発な活動に育った。活動開始から約2年間で35万個が収集できた。ポリオワクチン換算で約800名の子供たちへの支援を実現した。このような活動を通して、メンバー自身が自らの存在価値を再認識すると共に、自主性や社会参画意識の向上につなげていきたい。
- ⑥地域のボランティア活動の皆さんを積極的に受け入れた（現時点で3名）。
- ⑦悩みや相談ごとのあるメンバーのために、多くの相談の場を設けた。

等

- ・日時： 開所日数233日
- ・場所： NPO 法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者： 10名程度

## (2) 普及・啓発事業（地域交流活動 等）

### ○地域イベントへの参加・法人イベントの企画及び実行

#### ・内容：

- ①富士見地区防災訓練への参加や市展をはじめとした各種作品展への参加などを積極的に推進し、地域との交流に注力した。
- ②恒例イベントになりつつある「なぎさ祭（第3回）」を開催し、地域交流と普及啓発に努めた。
- ③前述の『エコキャップ活動』を地域の教育機関（酒匂中学校の生徒会、国際医療福祉大学の学友会）との協働（コラボ活動）につなげることができた。これらの活動を地道に推進し、更に地域との交流活動を発展させていく。
- ④新しい試みとして、「クリスマス地域交流会」を開催した。地域のボランティアさんや住民さんとの交流を深めることができた。

等

- ・日時： 随時（年10回以上）
- ・場所： 各々開催場所及び関係機関や地域全般
- ・従事者： 10名程度

### ○リーフレットや機関紙・ホームページ等の活用

#### ・内容：

- ①認定NPO取得に伴い、リーフレットの改訂版を発行した。
- ②機関紙を2回発行した。（No. 20：4月1日、No. 21：12月1日）
- ③地域のご協力の下、富士見地区を中心に上記機関紙を配布（回覧）するなどにより、地域交流や普及啓発に注力した。
- ④昨年度より開始したリーフレットや機関紙の常設機関を6機関から更に1機関追加し（現在合計7機関に常設させていただいている）、普及啓発事業の強化を図った。
- ⑤情報発信のツールとしてホームページを活用し、小田原なぎさ会の活動等について、地域社会へ理解と共に協働を広く投げかけている。
- ⑥小田原市社会福祉協議会から投げかけをいただき、社協の機関紙にて当法人の紹介をさせていただいた（記事掲載）。
- ⑦神奈川県NPO協働推進課の市民レポーター事業にて、当法人を取材していただき、当法人の紹介記事を神奈川県のホームページに掲載していただいた。

等

- ・日時： 常時
- ・場所： NPO 法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者： 数名程度

○精神障害者の就労支援の拡大展開（例；企業とのコラボ活動探索）

- ・内容：「改正障害者雇用促進法」の施行を踏まえ、私たちにできそうなところから具体的な就労支援につなげるべく、企業への協働提案などを開始した。
- ・日時： 随時
- ・場所： 地域全般
- ・従事者： 数名程度

○行政との懇談会・要望活動

- ・内容：平成29年度に向けた要望書を連携団体である梅の会と連名で小田原市長へ提出した。当法人からはこの数年に渡り「精神障害者の就労支援の強化（雇用促進の取組強化と就労定着に向けた環境整備）」に的を絞って、粘り強く要望を続けている。
- ・日時： 11月13日
- ・場所： 小田原市役所
- ・従事者： 数名程度

**(3) 連携に関する事業（地域ネットワーク活動 等）**

○地域ネットワーク会議

- ・内容：医療・福祉・行政などの機関や地域住民の方々に参加していただき、地域福祉の推進に向けたネットワーク会議を開催し、連携強化を推進した。
- ・日時： 年3回（開催日：5月20日、9月5日、3月17日）
- ・場所： NPO 法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者： 10名程度

○関係団体との交流活動

- ・内容：神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会（県精連）や小田原市障害者事業所連絡会（市事連）及び地域精神保健福祉連絡協議会に参画し、関連団体との協力・交流・連携の強化を図った。
- ・日時： 年10回程度
- ・場所： 神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者： 数名程度

○連携団体との交流活動

- ・内容：小田原地区精神保健福祉会「梅の会」の総会や新年会に参加し、協力・交流・連携の強化を図った。
- ・日時： 年数回程度
- ・場所： 小田原市周辺
- ・従事者： 数名程度